

令和5年度 県土整備委員会 県外視察の概要

1 参加委員等

(1) 委員

山西 国朗（委員長）、古野 司（副委員長）、原 徹臣、重清 佳之
長池 文武、近藤 諭、古川 広志、岡田 晋

2 視察日程及び視察箇所

視察日程	視 察 箇 所
8月1日(火)	静岡市議会（静岡県静岡市）
8月2日(水)	沼津市議会（静岡県沼津市）
	調布市議会（東京都調布市）
	荒川区議会（東京都荒川区）
8月3日(木)	関東地方整備局下館河川事務所（茨城県常総市）

3 調査目的及び視察概要

(1) 静岡市議会（静岡県静岡市）

(調査目的)

静岡市では、人口減少や高齢化社会が進行する中、ICT・AI等の最新技術を取り入れ、誰もが利用しやすい新たな移動サービスの提供と、これを生かした持続可能なまちづくり「しずおかMaaS（静岡型MaaS基幹事業実証プロジェクト）」に取り組んでいる。

そこで、こうした取組等について調査する。

(視察概要)

数年間にわたる静岡MaaSに関する実証実験の結果、これからの課題等の説明を受け、意見交換を行いました。



(2) 沼津市議会（静岡県沼津市）

(調査目的)

沼津市では、空き家、空店舗、空きビル、空き地等の既存の建物や土地をリノベーション手法により活用し、遊休不動産の再生と質の高い雇用の創出等を掛け合わせ、新たな産業振興と地域コミュニティの再生を図ることを目的としたまちづくり事業に取り組んでいる。

そこで、遊休不動産のリノベーション手法やまちづくり事業について調査する。

(視察概要)

リノベーションまちづくりと駅周辺設備を契機としたまちづくりの接続についての説明を受けた後、実際に空き家をリノベーションした沼津蒸留所を視察しました。



(3) 調布市議会（東京都調布市）

(調査目的)

調布市では、SNSを活用した空き家予備軍の可視化プロジェクトとして、LINE株式会社等と連携し、多世代にわたる空き家問題への関心喚起を促す事業に取り組んでいる。

そこで、先駆的な空き家予防啓発の取組等について調査する。

(視察概要)

調布市における空き家対策事業について説明を受けた後、意見交換を行いました。



(4) 荒川区議会（東京都荒川区）

（調査目的）

荒川区では、空き家の活用について考える会議体（プラットフォーム）を設置し、利用価値があるにもかかわらず活用していない空き家と、空き家を活用して地域に貢献する事業を行おうとする事業者のマッチングを行っている。

そこで、多様な主体が参加し、それぞれの立場を生かしながら空き家の利活用を推進するプラットフォームの取組等について調査する。

（視察概要）

荒川区空家利活用事業について説明を受けた後、意見交換を行いました。



(5) 関東地方整備局下館河川事務所（茨城県常総市）

（調査目的）

下館河川事務所では、平成27年9月の鬼怒川堤防決壊を受け、鬼怒川下流域において水防災意識社会の再構築を目指し、国、茨城県及び常総市など7市町が主体となり、ハードとソフトが一体となった緊急対策プロジェクトを実施している。

そこで、大規模河川での災害発生時の緊急対応、復旧過程及び住民との合意形成の取組等について調査する。

（視察概要）

鬼怒川緊急対策プロジェクトの取組について説明を受けた後、鬼怒川の堤防決壊箇所を視察しました。

